

柴崎友香

大学生という風景時間



小説家 A型
大阪府立大学
総合科学部卒業。
大阪市大正区生まれ。
高校は市岡高校。
大学では地理を専攻し、
クラブ活動は写真部に所属、
卒業論文のタイトルは「写真による都市の風景のイメージに関する考察—大阪を例に」。
大学二年生の時に書かれた手作りパンフの自己紹介には、映画、音楽が多数紹介される。現代美術や都市に関心があり、好きな小説家は夏目漱石。自分を動物にたとえるなら「コアラ」。その理由は「あまり動かずじっとしているのが好き、よく寝ているから」とある。

府大は昔も今も地味な大学である。一年生の時に髪がピンクだった学生もそのうち普通の茶髪になり、いつのまにか府大色に染まってしまう。おとなしく穏やかな大学、そんな府大生たちもモデルとなった柴崎友香原作の映画ができたがった。田中麗奈や妻夫木聡が府大生を演じ、京都の大学院に進学することの決まった友人の引っ越し祝いに京都の下宿に集まった面々の一日が描かれている。
タイトルは「きょうのできごと」。テレビでは毎日さまざまなニュースが流れているが、大半の日常生活は無関係にすぎていく。けれどもそれぞれの個人にも、ちょっとした「できごと」があり、それは本人にとってやはり大切なことである。
小説の第2話は「スカートがなかった」と、目をつけていたのに誰かに先に買われてしまった濃紺に赤いラインの入ったスカートのことをくどくどと繰り返す大学生の女の子の話からはじまる。「なんで、わたしのやん」。映画では田中麗奈が慣れないはずの大阪弁を完璧にこなして好演していた。自然な大阪弁は柴崎さんの要望でもあった。
小説では章ごとに主人公がかわり、視点を変えながら、それぞれの世界が丹念に描き出されていく。たいした事件は何も起こらず、情熱的なラブストーリーが展開するわけでもない。それにもかかわらず、いやそれだからこそ、小説を読み終えたあと、映画を見終わったあと、しばらくその内容が頭から離れず、心の奥底でいつまでも共鳴している、そんな作品となっている。

柴崎さんが大学生の時に卒業論文執筆に立ち会った、福田珠己助教授とのやりとりから、柴崎友香の世界に迫ってみよう。

福田
柴崎さんという書くこと以外に写真というイメージがつよいんですが、映画も公開されたばかりだし、そのことからうかがえます。言葉で書いたものが映像化されるのはどのような感じですか？

柴崎
いやあ、それはひとことでいうと変なかんじですね。ふしぎですね 私の妄想について、他人が真剣に話しあっているというのは…。でも再確認というか、自分がどんなことを考えてたんやろうと考えたりとかしましたね。

福田
面白いなということは何？

柴崎
あつ、そんなふうに感じはったんや、とかわかることですね。うれしいというか。私の本を読んで「僕はこんな風に考えました」ということが目の前に展開されているので…。

卒業論文
福田
私は柴崎さんが卒論を書いた年に赴任したので、できあがっていく最後のところだけをみたのですが、卒論の作成はいま思い出すと、どういう経験というか、どういう作業でしたか？

行定勲監督により映画化された柴崎友香原作の「きょうのできごと」は京都の大学院に入学した友人の引っ越し祝いに京都を訪れた大学生たちの何気ない一日を描写したものだが、大阪府立大学での学生生活がヒントになっている。

柴崎
ずっと自分の興味のあることは一定の方向を向いていると、最近思います。自分が見ている世界に関心があるというか、ふだん小説を書くのも、自分が見ている世界を文字におきかえる、言葉におきかえる、根底にそういうことに興味があるのかという気がします。目にみえるものとか、そこから受けとる感じなど自分の言葉で人に伝えるということをしたいたいと思っていました。卒論は趣味が実益というか、好きなことをやっていた。

写真と小説
福田
柴崎さんの小説はスナップ写真が連続しているような感じを受けるのですが。

柴崎
物語というよりは、言葉によって場面、場面を積み重ねることによって、一つのイメージを作りたいという感じで書いているので、写真っぽいかどうか、スナップ写真っぽいかというのは当たっていると思います。

福田
写真と小説の異なる点は？

柴崎
写真は実際にあるものを撮るというその面白さがあります。自分以外のものに左右されるという要因が大きくて、偶然的な要素が多いというか、はっと思った瞬間にシャッターを押して、くじ引き的な面白さがあるって、押したら当たっていたという感じですね。

マンガと小説
数年前に大阪府立大学で「陰陽道と道教」というシンポジウムを開き、『陰陽師』で有名な漫画家の岡野玲子さんに講演していただいたのだが、岡野さんに会いたくて柴崎さんも府大を訪れている。

どうしてシンポジウムのことをお知りになったのですか？

柴崎
ちょうど日本・東洋美術史の河野先生のところにマンガを返しに来て…、『陰陽師』じゃなくて、また別の中国モノを借りてたんですけど…

諸星大二郎？

柴崎
じゃなくて、トオジョオミホを返しに来て、その話をうかがったんです。『陰陽師』や諸星大二郎も最初、河野先生のところで読んで、あと全部、自分で買いました。

結構、マンガ読んでますか？

柴崎
マンガ大好き。

マンガを読んでいるとストーリーを作るのにいいんじゃないですか？

柴崎
影響うけてると思いますね。表現とか内容とか。絵がもっとうまければマンガ家になったかもしれないし…（全員爆笑）。

福田
これから大学生になる人に一言。

柴崎
地理学の指導教員の藤井正先生がかつて学科紹介のパンフレットに書かれていた言葉から、「死にそうになるくらい考えてみてください。そんな時間は学生の間だけです。また大学4年間は小学校4年間よりもずっと短いものです」。



福田珠己 FUKUDA Tamami
地理学専攻。東大阪出身。柴崎さんが四年生の時に赴任。柴崎さんとは小説の話などをよくしていたという。学生時代は、旅先、鍵盤楽器の前、映画館、喫茶店を巡る日々。詳しくは人間社会学部のホームページを参照。



写真家柴崎友香
「大学という風景 大学生という時間」というテーマでご自身で写真を撮っていただいた。モニュメントや新しい建物等は一切、撮らない。レンズを通した目も小説の視線と同じであった。他の写真はホームページで紹介。



生協前のニワトリのいた木
撮影 柴崎友香
柴崎さんの在学中、この木にはニワトリが棲んでおり、時をかまわず、時を告げていた。ぼつねんと坐る者、談笑する者、木の下にはゆるやかな時間が流れている。



生協の書籍売り場で
自作の前で、かわいらしくポーズをとっていただいた。生協では同じく府大出身の作家、東野圭吾とともに売り込みをかけますとのこと。

きょうのできごと
府大生の何気ない一日を描きながら心にしみ一冊。
単行本・文庫本 河出書房新社。

もうひとつの、きょうのできごと
撮り下ろし写真と4つの短編。
単行本 河出書房新社。

きょうのできごと（映画）
監督 行定勲 出演 田中麗奈 妻夫木聡 伊藤歩 池脇千鶴 松尾敏伸 柏原収史 三浦誠己 石野敦士 山本太郎ほか 音楽 矢井田瞳 a day on the planet
原作にない話もまた魅力的である。

青空感傷ツアー
ワガママで自己中心的だけれど誰もが振り向く美人でスタイル抜群の音生(ねお)と、かわい男の子と女の子にからかき弱い優柔不断な女の子、芽衣の繰り広げるトルコ、四国、沖縄への感傷ツアー。
単行本 河出書房新社。

次の町まで、きみはどんな歌を歌うの
池とか、駅からの道のりとか描かれている風景が府大なのです。(写真部後輩、末永彩)。
単行本 河出書房新社。

ショートカット
最新刊。ショートカット、やさしさ、パーティー、ボラロイドの4つの短編からなる。
単行本 河出書房新社。

OSAKAショートストーリー
毎日、寄り道
寄り道しては何かを食べるというおいしい企画。
ハナコWEST連載中。
マガジンハウス。